

「のうはだで」新春交流会

1月11日は「農はだで」でした。古くから当地方の農家ではこの日が農作業の始まりの日として、藁でその年に使う「もどつ」や「馬具」などを作りました。

その「農はだで」に倣い、1月22日に津谷地区まちづくり協議会の今年の初事業として「のうはだで」新春交流会が開催されました。



交流会には、会員である津谷地区の各団体の代表者や役員さん、民生委員・児童委員さんなど55名が出席し、佐藤会長の挨拶、及川本吉総合支所長の祝辞の後、佐藤秀一さんの音頭で乾杯し、各部会の代表が今年の活動について抱負を述べました。

新春講話 「馬籠小との統合を控えて、地域に期待すること」

津谷地区の機関・団体の代表の方からその年の抱負をお聞きする新春講話では、気

仙沼市立津谷小学校校長の菅原祥顕氏より「馬籠小との統合を控えて、地域に期待すること」と題して講話をいただきました。お話の要旨は次の通りです。

『統合を控えて、馬籠小保護者は複式学級から多人数での生活となるので不安が多いと思うが、統合して良かった・明るくなった・勉強するようになったと思われるような学校づくりをしていきたいと考え楽しみにしている。期待してほしい。』



平成28年6月から統合準備会を開催し、安全な登下校に時間を割いて、スクールバス運行や経路について検討を重ねてきた。

地域へのお願いとして、子どもたちへの「おはよう、行ってらっしゃい」などの声掛けや見守りをお願いしたい。危ないことをしていた時には注意してほしい。注意も見守りです。

学区が広がることで子どもたちの行動範囲も広くなり、目が行き届かなくなるので、地域から学校に情報をいただきたい。学校に知らせておいた方が良いことは教えてほしい。

子供たちの安全という意味で、まち協の防災安全部会と情報交換の機会を作らせてほしい。津谷地区の活性化には、子どもと関わることも必要で、そして、学校とも関わることでまち協の活動の幅も広がるのではないかと感じる。産業・観光部会の活動でも、子どもたちの視点からアンケートをとることで思わぬ発見があると思う。子どもたちの思いや考えをまちづくりに活かしてほしい。

小学校が行った保護者アンケート結果から地域で考えていただきたいことは、

- ①徒歩通学しているか？の問いでは、保護者送迎が3割、徒歩通学の児童が少ない。安心して登校できる環境づくりが必要と思われる。
- ②学校が学習活動で地域の産業や人材等を生かして、地域との連携を深めているか？の問いでは、約9割がそう思うと評価しているが、今後、まち協との連携で評価はさらに高まるのではないかと感じている。
- ③学校が自然災害や緊急時の避難等について適切に指導しているか？の問いでは、保護者から緊急時の引渡し訓練の要望がある。統合により児童数が増え学区が広がるので、災害等を想定した訓練に本吉分署やまち協の協力を得ながら取り組んでいきたい。

「学校は、地域に浮かぶ船」と言われている。間違った方向に進まないよう、皆様のご協力をいただきながら頑張っていきたい。』と話されました。

本吉公民館で「繭玉ならし」が行われました

去る1月21日(土)、本吉公民館において「繭玉ならし」が開催されました。この行事は、地域に古くから伝わる伝統行事「繭玉ならし」の体験を通して、子供たちが生まれ育った地域でかつて盛んだった養蚕の歴史や、小正月に行われる「繭玉ならし」などの習わしについての理解を深めるとともに、世代間の交流を図り、住みよい地域づくりに資することを目的に行われたものです。

当日は、小学生やその家族、老人クラブの皆さんなど45名が参加し、ゲームで交流した後餅つきを体験したり繭玉をならし、賑やかに楽しい時間を過ごしました。

餅つきの準備や昼食の調理はボランティアグループ四つ葉会の方々が担当してくださいました。



道路安全施設やがけ崩れなどの危険個所調査

1月中旬から2月末までに 津谷地区全域を調査

防災・安全部会では、日常生活の安全・安心を確保するために、地区の道路安全施設の点検と、自然災害などの発生を予防するために、がけ崩れの恐れがある危険個所の実地調査を行うことにしました。

調査は下記の要領により実施されることになっており、行政区振興会あるいは地域振興会単位に行われますので、多くの皆さんの参加をお願いします。

津谷地区「道路安全施設の点検・整備及び危険個所調査」実施要領

1. 調査の目的

地域住民の安心・安全な生活を実現するために、地区内道路の安全施設の点検と新たに整備が必要な個所の調査を行うとともに、がけ崩れや倒木などの危険個所の把握を行う。

調査結果を基に危険個所等の台帳を作成する。また、津谷地区まちづくり協議会のまちづくり計画の中で「地域安全整備計画」を策定し、市や振興会等と協働して計画的な安心・安全なまちづくりを推進する。

2. 主催

津谷地区まちづくり協議会防災・安全部会

3. 調査日時

平成29年1月中旬から2月末

4. 調査者

行政区単位または地域振興会単位に、振興会、婦人防火クラブ、自主防災会、防犯協会、交通安全協会の構成員が合同で行う。



5. 調査方法

調査範囲を踏査し施設の整備と危険個所等の整備が必要な個所を地図に記載要領に基づき記入。



6. 調査結果のとりまとめと整備計画策定

3月4日に防災・安全部会を開催し津谷地区全体のとりまとめを行い、調査結果を基に台帳を作成するとともに、津谷地区まちづくり計画の中で整備計画を策定する。

7. その他

上記のほか、調査に必要な事項は部会長が定めるものとする。



3月4日に調査結果のとりまとめ

「道路安全施設の点検・整備及び危険個所調査」の結果は、3月4日に防災・安全部会を開催し取りまとめることになっています。

また、取りまとめた内容は、整備が必要な個所の台帳を作成するとともに、津谷地区まちづくり計画の防災・安全計画に盛り込んで計画的な整備を図ることにします。

津谷地区まちづくり計画を策定します！

津谷地区まちづくり協議会は、「地域社会における住民相互の交流と住民主体の文化、学習、健康増進、福祉活動を促進し、併せて、環境の保持・改善、防災体制の確立、次世代育成による地域活性化のための支援活動など、地域のまちづくりに関する総合的な活動を振興会や各種団体などと連携して行い、地域のコミュニティづくりに寄与する」ことを目的に、地区の全てのまちづくり団体等を構成員に設立されたものです。

この目的を達成するために、地域課題を詳細に把握し、計画的にその解決を図っていく「まちづくり計画」を策定します。

平成29～30年度中に10か年計画を策定

津谷地区まちづくり計画の概要(素案)は下記のとおりです。

計画書の概要(素案)

①策定方法

- ・部会ごとの活動を通して津谷地区まちづくり構想を立案

②計画書の構成

- ・計画書の構成は7章とし、第1章地域の現状、第2章防災・安全、第3章産業・観光、第4章保健・福祉、第5章教育・文化、第6章環境・美化、第7章 資料とする。

③計画期間 平成31年～平成40年の10年計画

④策定作業の進め方

- ・平成28年度中に総務・企画部会において、計画書策定の具体的な内容を決定
- ・各部会は、部会の所掌事項について課題の把握と将来構想を検討



ホームページ開設準備中

津谷地区まちづくり協議会の活動をいつでも閲覧できるように、ただいまホームページの開設を準備中です、2月末から3月初めには出来上がる予定です。

URL〈ウェブサイトのアドレス(住所)〉が決まり次第お知らせいたします。

編集後記

1月22日に津谷地区まちづくり協議会の初の事業として、「のうはだで」新春交流会が開催されました。

昭和30年代頃まで農家で行われていた「農はだで」に倣ったものですが、「農はだで」って何？という人が多くなりました。この時期になると、小さい頃、父の「モドツ」をつくる作業を囲炉裏にあたって見ている記憶がよみがえってきます。(S・H)